



6 必要な情報が正確に伝わるまち

地域の活動、
行政の情報が
いろいろな手段で
伝わる

■福祉保健推進の目標値

項 目	現在	5年後
西区からのお知らせ（福祉・健康のお知らせなど）や催し物（生涯学習など）の情報を、ホームページから得る	2.4%	→ <u>10%</u>



6 必要な情報が正確に伝わるまち

地域の活動、行政の情報がいろいろな手段で伝わる

地域の活動、行政の情報が区民に伝わることで、支えあいのまちづくりの基盤ができ、地域で暮らす人と人がつながります。必要な人に必要な情報が正確に届くような仕組みづくりが大切です。

現状と課題

- 1 地域や行政からは、たくさんの情報が発信されています。
- 2 情報を伝える手段も、昔ながらの回覧板や掲示板、ちらしに加えて、インターネットのホームページなど多彩になっています。
- 3 区民アンケートでは、西区からのお知らせや催し物の情報入手方法について「広報よこはま西区版」と回答した人が最も多く、「自治会町内会の回覧板」、「掲示板」と続き、「区のホームページ」は2.4%でした。一方、30歳代の人では、「区のホームページ」が8.1%と高くなっています。
- 4 区民からは、

- 情報が多すぎて、何が大切なのかわからない
- 地域の情報が伝わらない
- 活動を伝える方法や場がないので、活動が広がらない

などという声が寄せられています。

区民アンケート調査結果

Q 西区からのお知らせや催し物の情報入手方法（複数回答）

情報入手方法	全体 (%)	30歳代 (%)
広報よこはま西区版（世帯配布用）	80.2	82.0
自治会町内会の回覧板	47.3	28.6
掲示板	19.3	20.5
区役所においてあるちらし	6.7	8.1
公共施設に置いてあるちらし	8.1	8.7
区役所の窓口職員	1.0	0.0
友人・知人など	6.6	8.7
家族	8.4	9.3
区のホームページ	2.4	8.1
行政サービスコーナーにおいてあるちらし	2.7	2.5
行政からのPRボックスにおいてあるちらし	3.6	6.8
その他	0.8	0.0
無回答	5.1	8.1



課題解決に向けた取組み

情報を持っている人は、必要な人に直接会って情報を届ける努力をし、情報を必要としている人は、さまざまな媒体に注目し「情報を受け取ろう」という姿勢を持ちます。

団体は、団体どうしの情報交換をします。

行政は、情報を正確に伝えるとともに、団体の情報を発信受信する仕組みをつくりま



団体の取組み

すでに取り組んでいること

● 情報を伝えたり、受け取ろうと思うよう働きかけます

- 保育園、医師会、薬剤師会、歯科医師会などはホームページをつくり、情報を掲載します
- 子育てグループ、PTA、ボランティアグループなどは、会の便りを発行し、活動に関心を持ってもらうよう働きかけます

☞ 情報を伝えたり、受け取れるよう協力します

- 自治会町内会は、行政からの情報を整理して、回覧板の内容や回数などを工夫します
- 自治会町内会は、掲示板を活用して、早く情報が伝わるようにします
- ちらしやホームページの作成などを得意な人が行います

☞ 情報交換の方法を身につける場や情報交換の仕組みがあります

- 商店街の店舗やロビーにちらしを掲示して、区民や団体の情報を知らせます

新たな取組み

● 情報を伝えたり、受け取ろうと思うよう働きかけます

☞ 情報を伝えたり、受け取れるよう協力します

- ひまわり、障害者グループホームなどは、自分たちでホームページをつくり、会のPRや情報交換をします
- 保護司会などは、活動のPRのための広報紙を作成します

☞ 情報交換の方法を身につける場や情報交換の仕組みがあります

- 生活支援ネットワークは、地域に向けての発信をテーマに生涯学習などに取り組みます
- みらい工房西は、施設内に様々な情報を掲示し、地域の情報発信の場にします
- 西区社会福祉協議会は、ボランティアのネットワークをつくり、企業などのボランティアの窓口となります

課題解決に向けた取組みとして、策定委員会で検討したアイデア

- 既存の掲示板（自治会町内会の掲示板）以外の掲示板を利用します（マンション、郵便局、銀行、商店など）
- 回覧物やちらしは、直接手渡しで説明したり、内容説明会を行います
- 大切な情報は、回覧より全戸配布をします



- 重要な情報を回覧するときには、目立つように工夫してまわします
- 緊急の場合は、通常の回覧よりルートを増やして早く伝えるようにします
- 地域情報紙のようなものがある、自治会町内会で回覧できればよい
- インターネットなどを利用できるよう、パソコンの端末を、公共施設や商店街などに設置します
- パソコンを設置した施設やお店の人が、パソコンの使い方を教えます
- 学校のパソコンルームが活用できないだろうか
- ホームページを作成する場合には、音声情報を入れるなど障害者への対応が必要です
- パソコンがない場合でもテレビ画面に接続して情報を入手できるよう工夫したらどうか
- 人が集まる商店街などに、情報の拠点となる場所を作ってはどうか
- 高齢者などにはケーブルテレビで情報を伝えてはどうか



行政の取組み

すでに取り組んでいること

● 情報を伝えたり、受け取ろうと思うよう働きかけます

- 広報よこはま西区版や区のホームページで、行政の情報を伝えます（区政推進課）
- 自治会町内会を通して、回覧板や掲示板で区の情報を適切に伝えます（全課）

👉 情報を伝えたり、受け取れるよう協力します

👉 情報交換の方法を身につける場や情報交換の仕組みがあります

- 「西区まちかど講座」で、地域に出向いて行政から区民に情報を伝えます（全課）

新たな取組み

● 情報を伝えたり、受け取ろうと思うよう働きかけます

- 区の情報を誰にどのように伝えるのか、点字版やSPコード、外国語版などの作成も含めて西区全体で考えていきます（全課）

👉 情報を伝えたり、受け取れるよう協力します

- 点字や外国語、手話通訳など誰もが情報を得られるようにします（全課）

👉 情報交換の方法を身につける場や情報交換の仕組みがあります

- 地域情報の発信や受信を支援し、みんなが利用できる情報共有システムをつくります（福祉保健課）【リーディング事業】
- 地域や行政の情報を入手できるよう、身近な場所でパソコンを気軽に体験できるようにします（福祉保健課、地域振興課）【リーディング事業】